

九州ネット 東京江戸前ラウンド

H. 25. 11. 15

九州、北海道・東北、北信越（合同）体育・保健体育ネットワーク研究会「東京江戸前ラウンド」が、筑波大学東京サテライトキャンパスで開催されました。

今回は、全国学校体育研究大会 東京開催分科会後に鹿屋体育大学の佐藤豊教授、筑波大学の岡出美則教授、愛媛大学の日野克博准教授をはじめ、全国各地から今回の全国学校体育研究大会に関わった先生や参加された先生方、総勢22名の参加で実施されました。今回は初日の全体会と2日目の各分科会の発表について、2日間の疲れも吹き飛ばぐらい有意義な議論が展開され、とても充実した研究会でした。（もちろん、その後の懇親会も発表者、指導助言者の先生方との交流で大いに盛り上がりました。）

【内容】

今回の研究協議は佐藤先生のリードのもと、各先生方が参加した分科会の内容について、所属の違う先生方4人一組になってそれぞれのグループで報告し合い、「体育の授業の在り方」などについて協議しました。その後、全ての分科会の様子についてホワイトボードに参加者が一目瞭然にわかるように記入し、情報の共有を図りました。その後、記入された内容について、分科会ごとに報告がなされ、それらについて佐藤先生と岡出先生から課題などについて貴重なコメントをいただきました。



また、今回のシンポジストである愛知県立一宮高校の後藤晃伸先生からは、生徒の運動の二極化の現状を踏まえ、生徒の運動に対する有能感を高め、運動嫌いをなくす授業づくりの必要性についてお話していただきました。この後藤先生のお話を受けて、体育の場面における「有能感」や「自尊感情」「自己肯定感」の解釈などについて議論がなされました。



最後には、第9分科会（町田市立南第四小学校）で指導助言された愛媛大学の日野先生から、授業の様子について報告がありました。この小学校での発表は「陸上運動」でしたが、「ひとりひとりを伸ばす授業の工夫」という主題のもと、とても丁寧に単元の全体計画の設定と児童が進んで運動に取り組み、課題解決を図る単元計画、「指導のねらい」と「指導する内容」を明確にした評価計画と指導の工夫がなされていました。



この学校では、さまざまな名言があり、なかでも「よい授業は1日にして成らず」とか「授業は笑顔で勝負する」「チーム保健体育」「引き出す 伸ばす 見取る」など、なるほどと全員が感動しました。

（東京事務局 杉山正明）